

○奥田地区タウンミーティング会議録(概要)

日 時:平成28年11月12日(土)

午前10時から午前11時40分まで

場 所:奥田公民館

出席者:約40人

テーマ1 人にやさしい安心・安全なまちづくりの取り組みについて:市民生活部

<主な説明事項>

1 交通安全

富山市の交通事故状況

交通安全教室事業

自転車交通安全教室修了証交付事業

高齢者運転免許自主返納支援事業

交通安全団体等との協働・連携

2 地域の安全

刑法犯認知件数の状況

自主防犯組織支援事業

防犯カメラ設置補助事業

ふるさとみまもり事業

非行防止推進事業

3 消費者保護

富山県内の特殊詐欺被害額の推移

消費生活センターについて

消費者保護に関する業務

悪質商法や特殊詐欺の被害にあわないために

【市民生活部の説明に対する質問】

(男性①)

自治振興会のオガワと申しまして、奥田校下の曙町に住んでおります。お聞きしたいのは、高齢者免許自主返納事業についてです。近頃の高齢者の事故を見ておりますと、私自身もそろそろ考えようかなと思っております。当地区の現状を見ると、新幹線事業で町内の約30%が移転しました。また、富山ライトレール開業に伴って富山港線はなくなり、バスもなくなったので、お年寄りスーパーや病院へ行くのにも歩いていかなければならなくなりました。おでかけ定期券の支援とありますが、乗る物がないんです。また、タクシー券がありますが、これも毎年ではなく(返納時の)1回だけですよね。

そこで、コミュニティバスの清水町ルートを永楽町まで伸ばしてもらいたいのです。これは以前にも提案しましたが、回答がなかなか得られません。返納したはいいが、交通機関がないのでは病院もスーパーも行けないことになります。市はどのように考えていますか。

(市民生活部長)

免許自主返納事業については、市民生活部でやっております。やはり富山は車社会ですから、免許を返納すると足がなくなるのが心配、というのはよく分かります。富山市はそういった意味でもコンパクトなまちづくりということで、できるだけ公共交通の利便性の高いところに住んでもらうことを推進しておりますが、一方で公共交通を活性化させなければならないということで、ライトレールを整備したり地鉄の運行本数を増やしたりなどの施策を進めておりますが、今おっしゃられたように隅々までバス路線があるかという、やはりない地域もあります。そういったことからについては、都市整備部の交通政策課が検討しており、旧町村部については、市営コミュニティバスという政策を行っておりますが、それ以外の地域についても、呉羽や水橋で実施しておりますコミュニティバスについては、バスを市が支援して、地域の住民と協力しながら運行するものです。しかし、必ずしも全ての地域で運行しているわけではありません。そういった仕組みを利用

する一方で、公共交通沿線への誘導も行なっております。そうは言えども、以前からそれ以外の地域に住んでいる人たちは、そんな簡単に転居できないということもありますので、今の質問の全てに市民生活部だけではお答えできません。少しでも事故を減らすためには免許返納が効果的であり、免許返納を検討している方の背中を押すようなひとつの契機としてこの施策があるということです。しかし、毎年サービスが受けられるわけではなく(返納時の)1回だけです。実際に私の親も自宅の近くにバス路線がありましたが、そのバス路線はなくなりました。そのため、2万円分のタクシー券を利用していました。券がなくなった後は、他の家族が送迎したり、自腹でタクシーを利用したりしています。また、こちらの地域はライトレールが近い方もおられるし、バス路線が近い方もおられます。できる限りそちらも利用していただければと思います。完全な回答ではなく申し訳ありません。

(男性②)

今の質問に関連して、やはり公共交通を活用するという意識を高めなければならないと思います。そこで、私の経験なんですが、一昨日自動車免許の更新がありました。実際そこで特別な指導を受けたのですが、中にはペーパードライバーのまま高齢を迎えられた方もいて、やはり運転能力あるいは運動能力、視覚、聴覚というものが随分落ちているというのを私自身も感じてびっくりしているんですが、その時の講義で、非常に深刻な交通事故が起きており、増加していると言われました。富山市は非常に広域であり、公共交通を利用できる地域が限られています。これを全域的にどう見ていくかということが問われていますが、コミュニティバスが良いことは分かっているし、フィーダーバスもこれから考えていかなければならないということも重々分かっているし、とりあえずこれは今の支援制度として、2万円の…これは1年間だけですよね。

(生活安全交通課長)

1回だけの支給ですが、サービスは次の年度にも使えます。

(男性②)

そうですか。財政的な問題もあると思いますが、これらの制度をもう少し充実していくことはできないでしょうか。この地域はわりと恵まれていると思いますが、富山市は非常に広域ですから、公共交通と全く関係ない過疎地域もあります。そのため、結局何が使いやすいかという、やっぱりタクシー券だと思います。今は2万円相当ということになっておりますが、これの充実ということが今後の課題だと思います。

それから、高齢者なものですから病院通いも多いので、免許を手放してしまうと、こういう人たちに対して富山駅から日赤は近いですが、それ以外の市民病院や県中、済生会などのバス利用に便宜を図る。あるいは東京都のようなことはできませんが、無料にするなど、非常に課題も多いと思いますが、何か福祉的な面での課題を研究する必要があると思いますので、ご検討をお願いします。意見の一つということで、回答はいりません。

(女性①)

女性の会と女性防火クラブをやっております、ナガタと申します。今の時代、80歳以上 85 歳でも頭のしっかりしておられる方は、みなさん運転しておられます。私は運転しませんが、主人が運転している時に助手席に乗っていると、方向指示器も出さずに曲がったり、わき道から急に出たりする高齢者がいるので、怖い思いをすることがあります。

しかし、今の時代は80代の方がたくさん運転しているということ、より若い方たちに気をつけてもらわないと事故が起きてしまうということ、60代の主人ともよく話します。高齢ドライバーは、これからもっと増えると思うので、若いドライバーが気をつけることが交通事故を防ぐためには大事なのではないかと思います。高齢者になっても、車を頼りにして生活されている方もいらっしゃるので、高齢者を規制することも大事ですが、若い方への交通指導もとても重要なことだと思います。

(市民生活部長)

先ほど交通事故件数が40%以上減っているというデータを出しましたが、これは全体の件数です。このうち高齢者の事故件数がどうかと言いますと、高齢者の件数も減ってきております。ただし、全体では約40%の減少ですが、高齢者は約20%の減少にとどまっております。減少割合がもう少し緩やかです。先ほどご説明した交通安全教室などの地道な活動により、啓発を進めて、みなさんに協力いただいているんですが、その一方で高齢者のアクセルとブレーキの踏み間違え等が、最近の新聞紙上を賑わせております。道路交通法が平成29年3月に改正になり、免許の更新が75歳以上の高齢者に関しては厳しくなります。

(市民生活部次長)

市民生活部次長を務めております富山でございます。よろしく申し上げます。平成29年3月12日に施行されます改正道路交通法で大きく2点の改正点があり、そのうち一つが75歳以上の高齢ドライバーへの認知機能検査を厳しくするというものです。運転免許更新時の認知機能検査で、記憶力・判断力が低くなっていると判定された場合、例えば合図を出したつもりで出していなかったり、信号無視をしたり、あるいは高速道路を逆走したりした場合、現行では医師の診断を求めていましたが、改正後は違反の有無に関わらず、医師の診断を義務づけることになりました。

もう一つは、免許更新時以外でも75歳以上のドライバーが違反行為をした場合には、その時点で臨時認知機能検査を受けることが義務付けられます。この検査によって、記憶力・判断力が低くなっていると判定された場合、更新時と同様に医師の診断を義務付け、認知症と診断されれば、免許の取り消し又は停止になることになりました。

しかし、先ほどおっしゃられたように、若い方たちが高齢ドライバーを優しく見守るということも大事ではないかというご意見がございましたが、やはり道路を利用される全ての方々が他の人を思いやって行動するというのが最も大切だと思います。歩く人も、自転車に乗る人も、オートバイに乗る人も、車を運転する人もそれぞれの立場で自分が周り

の人たちに迷惑をかけないとか、あるいは運転していて歩行者を見かけたら、減速をして安全に通行させてあげるとかという気持ちが大事です。そういった心を育てる教育とか指導も大切だということで、本市でも先ほどご説明した色々な講習においてそういったことから指導しておりますし、警察でも運転者講習等で指導させていただいておりますので、よろしくお願いします。

(男性③)

牛島新町のタケシマと申します。反射材についてお願いがあります。反射材の効用はみなさんをご存知だと思います。去年は19人交通事故で亡くなっておられるとのこと。負傷者も2,000人を超えておりますが、事故防止のためにただ反射材を着用しろと言ってもダメなので、例えば富山市は反射材を着用して交通事故に遭った場合はいくらかの見舞金を出すということを検討されたらどうかと思います。死亡者・負傷者のうち、どの程度が歩行者なのか分かりませんが、反射材を着用していれば事故率もかなり低いと思います。

(市民生活部長)

ご意見ありがとうございます。ご意見は伺わせていただきます。しかし、現在そういったデータがございませんので、まずそういったデータがとれるかどうか検討させていただきます。

(男性④)

フナコシと申します。ご説明にはなかったんですが、一週間ほど前に地区センターで「国民保護計画のあらまし」という県のパンフレットが配られまして、これを拝見しますと平成18年度は市町村で保護計画を作成することになっているのですが、これについては市民生活部ではなく別の部署が担当ですか。

(市民生活部)

防災担当をしている建設部です。

(男性④)

ありがとうございました。

テーマ2 富山市の主要教育施策について:教育委員会

<主な説明事項>

富山市の主要教育施策

■富山市の学校数・児童生徒数(市立分)

1 富山市教育振興基本計画

基本理念(教育目標)

計画の体系

2 現行学習指導要領

重視されている事項

3 学校教育の充実

(1) 学習指導の取組み

ア 言語活動の充実

イ 体験活動の充実

ウ 小学校外国語活動の充実

(2) 富山市学力調査の実施

全国学力調査の結果

趣旨

(3) 教師の指導力向上

ア 小中連携を中心とした学力向上推進事業

イ とやま技塾

ウ 「道しるべ～授業のいろは～」

(4) 教育相談の充実

①スクールカウンセラーの配置

②スクールソーシャルワーカーの配置

(5) 学校評価の活用

(6) 学校施設の耐震化

4 社会教育の充実

～富山市の社会教育施設～

孫とおでかけ支援事業

(1) 公民館活動の状況

ふるさとづくり推進事業

(2) 公民館の耐震化

(3) 図書館本館について

本館の特色

読書推進プログラムの展開

おわりに

【教育委員会の説明に対する質問】

(男性⑤)

2点質問をお願いします。資料20頁の下から2行目ですが、学校評価の活用の独自の課題で「読書の推進」とありますが、具体的にどのようなことをされていて、どのような成果が上がっているのかというのが1点目です。

もう1点は、先生方の時間外業務の件です。私は町内の防犯パトロールに参加しておりまして、月2回木曜日に学校前集合で20時からパトロールしているのですが、その

際職員室に毎回灯りがついています。これは先生方の負担が増加傾向にあるのか、どのような理由で時間外勤務しておられるのか、差障りのないない範囲でお答えください。

(学校教育課長)

学校教育課の武島と申します。よろしく申し上げます。まず最初のご質問であります「読書活動の推進」であります。これは各学校で目標を設定して色々と工夫して行っております。例えば、ある学校は校舎内の学年のスペースにテーブルなどを準備いたしまして、そこに決められた作者の本をそろえて、子どもたちが自由に同じ作者の本を読めるように工夫していますし、読書の紹介カードも作っております、学年を超えて読んで面白かった本を子どもたちが紹介し合うということも行っております。これらの活動によりまして、子どもたちが本を手取る機会が増えておりまして、読書の推進に繋がっているものと思われま。

2つ目のご質問の教員の時間外勤務につきましては、学校によりまして業務が忙しいというところもございまして、20時に灯りがついているということでございまして、全員ではなく数人が残っているという状態ではないかと思っております。教育委員会といたしましても、長い時間残っているのは好ましくないと考えておりまして、例えば毎週水曜日をリフレッシュデーといたしまして、学校で約束して水曜日は早く帰ろうと決めるなどしている学校もあります。また、事務負担の軽減にも努めておりまして、中学校におきましては、出席簿については自動で入力できるような形をとっておりますし、成績処理につきましても、入力していくことで成績に関するものが出来上がるようなシステムの構築も行っているところでは。

(教育長)

付け加えますと、教員の多忙化が大変問題になっておりまして、教育委員会でも少しでも多忙化を少なくするために色々取り組んでおります。例えば今ほどご説明しました

ように、書類作りについてはICT化を進めるなどしておりますが、心配しておりますのは、年配の(経験豊富な)先生方が大量退職の時期に入っていくことです。そして若い先生がどんどん増えています。みなさんも学校に行かれたら、「若い先生が多いな」と感じると思うのですが、そうするとやっぱり仕事の要領が分からない。若い先生は家で子どもが待っているということもないものですから、学校に残っているということもありまして、私どもも若い先生たちがどうやって仕事ができるようにしていくかということにも取り組んでいかなければならないと思っております。

(男性⑥)

アライと申します。教育長にお願いしたいのですが、今も不登校の問題がずっと続いております。目標で出席率を設定するとありますが、増えているのか減っているのか分かりません。私は中学校のすぐ前に住んでいるので分かるのですが、保健室登校というのもあると思うのです。8時10分～8時15分くらいに最後の生徒が登校するのですが、それ以降にも9時30分頃とか、帰りも14時頃に帰るといふ生徒がいます。奥田中学校だけではないと思うのですが、他の学校にも現状では登校できない生徒が何人くらいいて、保健室登校が何人くらいいるのかお聞きしたいと思えます。

もう1点は、施設課の問題だと思うのですが、帰られるのが遅い先生もいらっしゃいます。部活動の指導をされていたり、21時まで仕事をされていたりして大変だと思います。それ以降にも残って資料を作ったり色々なことをされていると思うのですが、よく学校の電気が消えていないまま帰られることがあります。例えば、金曜日に(電気をつけたまま)帰られると、月曜日の朝までつきっぱなしです。町内会長のムラオさんが学校や教育委員会に言っていますが、なかなか改善しません。以前も提案したことがありますが、入口に(全館一括で)電源が切れるところがないので(切り忘れが発生します)。4階がいつもついています。下の階は全て見えると思うのですが、上の階が残っているのです。北館や南館のトイレの電気の切り忘れが目立ちます。教室なら見えると思いますが、そういうところを忘れて帰られると、3日間電気がつきっぱなしになります。こういうこと

は全ての学校であるか分かりませんが、人間ですから忘れることはありますから、当番の先生がボタンを押せば全ての電気が消せるような方法をとれるよう検討してください。

(学校教育課長)

それでは、最初の不登校の児童・生徒数について申し上げます。平成26年度と27年度を比較した場合ですが、不登校児童・生徒数は小中学校いずれも減少しております。出現率という数字ですと、小学校については平成26年度に千人当たり3.8人だったのが、27年度では3.7人になっております。中学校については平成26年度が千人当たり20.5人だったのが、27年度には19.1人となりました。大幅ではありませんが、減少しております。保健室登校の児童・生徒数につきましては、各学校に保健室登校の生徒がいると思いますが、データがございません。しかし、人数についてはそんなに多くないと思います。

(教育次長)

不登校につきましては、今ほど課長が申しましたように減ってきております。全国的に見ますと、都市部に不登校が多い傾向にあり、以前は富山県においても富山市の不登校が多かったです。しかし、小学校は平成24年度から、中学校は平成25年度から富山県の不登校率を下回っております。先ほど平成19年度から出席率の向上に取り組んできたと申しましたが、それも効果が上がっておりまして、子どもたちが学校に来たら楽しいと(感じる)、授業が分かるというように、先生方が改善している成果ではないかと思っております。全国的には都市部の不登校が多いので、富山市は今一生懸命がんばっており、先ほどご説明いたしましたスクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーも奥田小・中学校にも配置しておりまして、しっかりと成果が表れてきているのではないかと思います。

併せて電気の件ですが、これにつきましては注意いたしますので、連絡いただければ学校へ伝達いたします。今後も消し忘れがないよう注意いたしたいと思っております。

(男性⑦)

今年完成いたしました公民館でタウンミーティングを開催していただきまして、本当にありがとうございます。長年奥田校区の懸案でありました、公民館・地区センターあるいはまた奥田小学校の改築など、非常に多くの事務をしていただきました。この地区は駅の北側であり、大昔は駅裏と言われておりました。今はそんなことを言われることもなく、富岩運河というすばらしい施設がございまして、県内外から年間100万人以上の方々が来られる、富山市の中でもちょっと雰囲気の違いした校区です。外国人の方も、ヨーロッパ系というよりも東南アジアの方が多いため(日本人の中に入っても)目立ちませんが、外国人の方が多いい校区です。他の校区でも色々な事業があると思いますが、奥田校区は変わった色のついた校区だと思えます。これから南北一体化ということになりますと、ますますそのような傾向でこの奥田校区が非常に素晴らしい町、あるいは住民が住みやすい校区になろうかと思えます。そういったことも含めて、より一層行政のご支援をいただければと思えます。

奥田校区は富山駅のすぐそばであり、東西あるいは南北に道路がちょうど交差する場所なので、交通渋滞が発生しております。ちょうど八田橋の改築ということもありまして、そういうことでソフト面、ハード面に渡り支援いただくことも多くあるわけですが、先ほどのご説明では学校の研究会など、素晴らしい教育もしていただいておりますので、具体的に何が足りないということはないのですが、企画管理部長もおられますので、トータルの問題の中で今後ともご支援いただければと思えます。

(教育長)

ありがとうございました。先ほど奥田小学校の取り組みについてご説明しましたが、本当に一生懸命やっている子どもたちです。奥田中学校も富山市が取り入れている学校選択制で大変希望が多いということもあり、これも地域のみなさん、保護者の方々がしっかり支えてくださっているおかげであり、大変感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

(企画管理部長)

企画管理部長の本田でございます。本日は本当にたくさんの方に来ていただきましてありがとうございます。締めあいさつではございません。先ほどオガワ様から、コミュニティバスの延伸のご質問をいただいております。現状厳しいと思いますが、担当部局から地区センターを通じてご回答させていただきたいと思っております。また、フナコシ様からご質問いただいた国民保護計画については、項目だけお聞かせいただければ、担当部局に伝えてご回答できるものに関しては、ご回答させていただきます。

※担当課(交通政策課)が直接本人と面談済(要望であり回答不要を確認)。

(女性①)

これだけ素晴らしい教育に取り組んでおられますが、いじめがなかなかなくなりません。小学校も中学校も、どのようにしたらいじめがなくなるのでしょうか。子どもたちから友だちやその他色々な方々からのいじめの話を聞く度にどうした良いものかと、私自身も悩んでいます。今は共働きの夫婦がほとんどなので、親が忙しいから子どもに目が行かないのだと思います。5分でも10分でも子どもと親が話す機会を設けるというのは昔から言われていますが、親自身も忙しいので、なかなかできません。そういうことができているならば、いじめはもっと少なくなるんじゃないかと思いますが、教育委員会ではどのようにお考えですか。

(学校教育課長)

いじめの問題につきましては、教育委員会でもいつも気にかけております。件数について申し上げますと、富山市におきましては平成26年度と27年度を比べますと、小学校では減少しております。中学校では増加しております。件数について申し上げましたが、いじめというのは主に学校において行われるので、教育委員会はいじめの発見に努めています。そのため、件数の増減だけでは判断できないのではないかと思います。もちろん発見するだけではいけませんので、解消率も出しており、100%を目指してお

ります。現在も小中学校で継続していると思われるいじめもありますが、学校と協力しながら100%の解消を目指しているところです。(いじめの)原因につきましては、家庭の問題もあるかもしれませんが、学校内の問題もあるかもしれませんので、家庭や地域も加わっていただいて、家庭・地域・学校で連携しながら多くの目で子どもたちを見守っていくことも必要ではないかと思えます。

(教育長)

いじめの問題につきましては、子どもの自殺にまでつながる問題ですので、学校でも教育委員会でも最優先課題として取り組んでいます。しかし、いじめがなくなるかという正直なかならないのではないかと思えます。と言うのは、子どもの成長に従って再生産するからです。子どもが入ってくれば、またいじめが起こるので、学校にはいじめはあるものだと思って対応し、いかにして発見するかが重要だと伝えてあります。そして、いじめはやっちゃいけないということを、道徳の時間や学校行事、そして授業の中など色々な機会を捉えて、繰り返し色々な形であの手この手で訴えていくしかないだろうと思えます。大人の社会にもあるくらいですから、本当にいじめをなくすのは難しいと思えます。会社や組織があれば、いじめは発生します。どうも人間にはそういう^{さが}性があるように思えます。しかし、死につながる大変な問題なので、十分に検討しながら解消に向けて取り組んでいることはお伝えしたいと思えます。

【その他意見交換】

(女性②)

奥田小学校PTAのタカハシと申します。私は40代の県外出身です。先ほどのいじめの話と交通安全の話に関連付けて聞いておりました。富山に来た時に、運転を見てすごく気になったのは、運転が荒いのではなくマナーが悪いところでした。今でもそれは変わっておりませんし、家族の中でもいつもその話題になります。結局、先ほどおっし

やった職場のいじめも運転も、自分が一番早く目的地に着きたいなど、周りのことを考えないことにすごく共通点があると思います。

先ほどの資料を見ておりましたが、子どもたちに対する交通安全のルールなどについて、大人から教えてあげるのは当然ですし、高齢者の方々が参加される交通安全教室も、そういう意識の方々が集まられるので、全員ではないと思います。20代、30代、40代、50代の私たちの世代の、特に車を足代わりに使っている社会人の方々に届けるために、どのようなチャンスがあるのだろうかと考えますと、いくら交通安全の黄色いのぼりがたくさん立っていても、関係ないと思う人には全然響いていないわけです。小さい子どもたちは、そういう両親の車に毎日乗って移動しているわけで、そういう運転を当たり前と思っている子どもたちは、やはりそういう運転をする人になると思うので、20～50代の人たちにどういう機会を設けて、どういう風に伝えていくかということが難しいと思います。そういう人たちも(交通安全に)興味があろうがなかろうが必ず行うのが運転免許の更新です。管轄は違うと思うのですが、必ず免許がある人が(行く)免許センターの更新の場と連携して上手く活用して訴えるチャンスが増えたら良いと常日頃から考えています。何か接点があればそういう場を上手く活用して、運転する人たちが高齢者などに対して優しい運転ができるにはどうしたら良いのかということも含めて、何か検討していただければと思います。

(市民生活部次長)

ただ今のご提案について、ご説明させていただきたいと思います。私は富山県警察から富山市へ出向してきております。市の交通安全の部分は高齢者と子ども中心であり、ドライバーから見ると弱い立場の人たちの意識の啓発を高めるという指導をしております。その他全般的に意識啓発するという形でやっておりますが、その他の世代については、主に警察や交通安全協会が担当しております。免許の更新を一つのきっかけにするというのは有効だと考えており、まさに今講習の充実にも努めているところであり、あるいは会社と警察、交通安全協会が連携して社内教育として講習を行っているところで

ございます。また、大きな会社は車の保有台数も多くなりますので、安全運転管理者を選任しなければならないので、その安全運転管理者を集めて法定講習を行い、会社に戻られてから社員に指導していただくというようなことを幅広くやっております。そのような中でも、まだ交通マナーが悪いと非常に耳の痛いお話をさせていただきました。一般的に富山のドライバーは合図が遅い、あるいは信号の赤から青に変わる時に見切り発車で、直進車両に先行して右折するなどといった指摘をされます。そういう迷惑性の高い行為を防止するために、警察や交通安全協会ではマナーそのものの向上に努めております。また、警察官が保育園や幼稚園に伺い、チャイルドシートの正しいつけ方等の教室を行ったりしてきましたが、実は子どもの事故は、昔と比べるとかなり少なくなってきました。交通戦争と言われた昭和35年以降ぐっと増えたのですが、この時代に亡くなられた方は、子どもさんが最も多かった。そうした中で、子どもたちを守ろうという活動が始まりました。確かに子どもが道路を歩いたり横断したりしている時に車にはねられると大きな怪我をしますが、今はそういう事故よりも両親の車に同乗している際に事故に遭い、チャイルドシートをしていないために怪我をするといった事案も多く起きています。そのため、やはり小さい子ども、あるいは誰を乗せるにしても、シートベルトの着用は絶対欠かせないということです。抱っこすれば大丈夫だと思うかもしれませんが、事故を起こした場合どうなるかを考えないままその場その場の雰囲気ですべてやってしまうと、最悪の事態に陥った場合、取り返しのつかないことになりかねません。いくら後悔しても時間や命は取り返せないということを、皆さん一人ひとりが自覚されることが最も大切だという指導を行って啓発に努めておりますので、今後も色々なご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)